

---

# 温もり

悠月 香夏子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

温もり

### 【Nコード】

N5010T

### 【作者名】

悠月 香夏子

### 【あらすじ】

わたしと、先輩の、物語。

## 温もり #1

なんだろう…。

わたしは、通う中学校の廊下にいた。

壁に寄りかかり、手作りの椅子に腰掛けていた。

なんでこんな場所に？

ふと横を見ると、見覚えのある横顔の男子生徒が見受けられた。

「先……輩？」

すると、手を止めて横顔がこちらを向く。

目が合った。

「あ……いえ。続けてください……。」

これは、夢？

わたしは、急に怖くなった。

また、あの時の恐怖が襲い掛かる気がして。

同時に、この時間が永遠に続いてほしかった。

「先輩。今日のわたしは少し変なようです。

今からすることは意識……しないでくださいね。」

ぎゅ……。

返答を待ちもしないで後ろから強く抱きしめる。

強く、強く。

その瞬間、先輩の体温と温もりが……。

わたしは目を閉じた。

先輩は少し驚いた後、私の腕を握った。

凍りつくほど冷たかった。

氷、みたい。

しばらくして、先輩はわたしにこう言った。

「俺の事、好き？」

「……はい。」

今、繋がった。

二人の  
想い。

## 温もり #2

また、ループする。

繋がった気がしたのに、

それはわたしの手をするりと抜ける。

届かない。

「今、なんて……。」

声が、上手く出ない。足が、竦む。

「だからね、あの先輩、交通事故で亡くなったの。

昨日の、下校のときに……即死だったって……。」

全身の力が<sup>ちから</sup>抜ける。立ち崩れるわたし。

やっと繋がったのに。届かないの？

気がつくと、わたしは泣いていた。

一生分の涙を、流した。

……き……なさ……起……ない……い。

ハッ……!!

「……夢？」

そう、全ては夢だったのだ。全て、幻。まやかし。

先輩の事が好きだというわたしの想い以外は……。

「早く学校へ行きなさい!!」

「はあい……。いつてきまーす」

### 温もり #3

暗転。学校。

いつもどおりの時間につく。

靴を履きかえ教室に向かう。

目に飛び込んだのは……。

「先輩!!」

わたしは走る。

確かな温もりが欲しかった。

幻でも、まやかしてもない、”本当の温もり”が……。

飛びつくわたし、驚く先輩。

「どうしたの？」

「……いえ……。」

夢では感じられなかった、温かな温もりが私を包む。

温かく、ほんのりとした、先輩の体温……。

今だけは、甘えてもいいよね。

「好きだよ、先輩。」

わたしは、小さくつぶやいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5010t/>

---

温もり

2011年10月9日03時52分発行